

## 令和8年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(共通)

別添

なし

応募概要	分野	音楽	種目	オーケストラ等
	応募区分	特別エリア区分		
	複数応募の有無	無	応募総企画数	
	複数の企画が採択された場合の実施体制 ※			

※ 複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません(グレーアウトされます)。

文化芸術団体の概要	ふりがな	ありのみかぶしきがいしや				
	制作団体名	ありのみ株式会社				
	代表者職・氏名	代表取締役・小川正毅		団体ウェブサイトURL <a href="https://arinomi.jp/">https://arinomi.jp/</a>		
	制作団体所在地	〒 180-0023	最寄駅(バス停)	武蔵境駅		
	東京都武蔵野市境南町2丁目7番20号 ダイアパレス武蔵境2-407号(千葉県鎌ヶ谷市へ移転手続き中)					
	制作団体と公演団体が同一である場合はこちらにチェック	<input type="checkbox"/>	※チェックをつけた場合、下記公演団体の情報は記載不要です			
	ふりがな	かぜのごじゅうそうだんとなかまたち～かぜのがっそうだん				
	公演団体名	風の五重奏団となかまたち～風の合奏団				
	代表者職・氏名	代表・小川正毅		団体ウェブサイトURL <a href="https://arinomi.jimdofree.com/">https://arinomi.jimdofree.com/</a>		
	公演団体所在地	〒 180-0023	最寄駅(バス停)	武蔵境駅		
	東京都武蔵野市境南町2丁目7番20号 ダイアパレス武蔵境2-407号(千葉県鎌ヶ谷市へ移転手続き中)					
	制作団体 設立年月	平成19年2月				
	制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等			
	株式会社。代表取締役及び取締役		プロの音楽家			
	事務体制 事務(制作)専任担当者の有無	他の業務と兼任の担当者を置く	本事業担当者名	小川正毅		
	経理処理等の監査担当の有無	無	経理担当者	小川正毅		
	本応募にかかる連絡先	メールアドレス	電話番号			
	<a href="mailto:info@arinomi.jp">info@arinomi.jp</a>		09093062356			

制作団体沿革・主な受賞歴	<p>2007年、増加してきた「制作を伴う演奏業務」のスムーズな進行を願い、ホルン奏者小川正毅により設立。以来、主に“風の五重奏団”(木管五重奏)の公演制作を中心に、CD製作、オペラ公演のオーケストラ制作、楽器、機材のレンタル等を行う。</p> <p>特に“風の五重奏団”(木管五重奏)は、会社設立のきっかけとなった東京都三鷹市の(公財)三鷹市スポーツと文化財団による市内小学校での「訪問演奏」をはじめ、文化庁「芸術家の派遣事業」への出演等、全国各地で活躍。CDは5枚がリリースされており、iTunes、Amazon、Youtube等各サイトから音源が配信されている。ベリオ「作品番号獣番」では、日本語版の権利関係を調査整理し、同版初のリリースを実現、「世界の名曲メドレー集」では、未出版であった近衛秀健編曲による一連の作品群の音源化と同時に、楽譜の出版(ドレミ楽譜出版社)にも協力、この分野に於けるレパートリーの拡大に貢献、音楽現代、CDジャーナル等でも高く評価されてきた。</p> <p>コロナ禍以降は、文化庁「文化芸術活動の継続支援事業」、東京都による「アートにエールを」等に参加、姉妹団体“森の五重奏団”と共に動画制作、新たな演目の開発等を積極的に行う。合わせて東京都三鷹市、静岡県裾野市、小山町、千葉県白井市では実験的なコンサート「風の五重奏団となかまたち」を展開、学校公演から始まりホールへの人の流れを考慮した公共ホールとも協働。我が国で最も活発に長く活躍してきた室内楽団体のひとつである。</p> <p>近年はピアノ、サックスを含む編成や、映像、朗読との共演も多くなっており、“風の合奏団”としての活動が増加。一方、(公社)日本芸能実演家団体協議会、(公財)音楽文化創造、日本音楽家ユニオンによる“あすなろコンサート”への出演協力等、社会貢献活動も行っている。</p>
制作団体の実績	<p>学校等における公演実績</p> <p>2025年で21年継続している東京都三鷹市内小学校での「訪問演奏」(三鷹市教育委員会事業、公益財団法人三鷹市スポーツと文化財団制作)と三鷹市芸術文化センター・風のホールでの「ニューイヤー・ファミリーコンサート」「クリスマス・ファミリーコンサート」をはじめ、「ラ・フォルジュルネ新潟」(新潟市)、「ワンコイン・リレーコンサート」(大分市)、「アイネクライネ昼のムジーク」(埼玉県上尾市)、2007年から参加している文化庁「芸術家の派遣」「文化施設等活用事業」、公益財団法人神奈川芸術文化財団による「横浜市芸術文化教育プラットホームによる学校プログラム」等に出演。特に、学校の音楽室での演奏を中心とするアウトリーチ公演を2000回以上を実施してきた。</p> <p>プログラムは、20年に渡り現場でいただいたご意見により改良を続け、現在は演奏曲目の解説のみならず、楽器の構造や映画音楽に於ける権利処理された画像等、約50分の公演中に100枚以上を投影しながら進行、先生方や児童生徒から「わかりやすい」と好評を得ており、正に「みんなで創った音楽会」を続けていく。</p> <p>聴衆との共演曲としては、校歌やご希望があった楽曲を積極的に木管五重奏に編曲、特にハンドベルを使用したオリジナル演目で、最大80名程度までの聴衆と一緒に演奏する「モーツアルトのカノン」を3曲制作。日本語版初で、かつ現在唯一の録音であるベリオ「作品番号獣番」(奏者全員がセリフを伴う)と共に、「たのしかった！」と多くの感想をいただいている。</p>
特別支援学校等における公演実績	<p>2007年から参加している文化庁「芸術家の派遣」事業(学校への芸術家等派遣事業、次代を担う子どもの文化芸術体験事業、文化芸術による子供の育成事業、文化芸術による子供育成総合事業、学校に於ける文化芸術鑑賞・体験事業等)による公演には、特別支援学校、または特別支援学級を対象とした公演が数多く含まれている。</p>

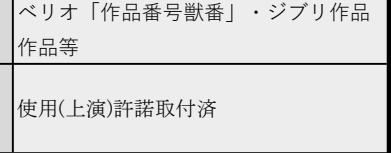
参考資料	申請する演目のWEB公開資料	有
	※公開資料有の場合URL	<a href="https://www.youtube.com/watch?v=jjeRFXt0G6U&amp;t=1s">https://www.youtube.com/watch?v=jjeRFXt0G6U&amp;t=1s</a>
	※閲覧に権限が必要な場合のID及びパスワード	ID: <input type="text"/> PW: <input type="password"/>

別添

なし

【公演団体名 風の五重奏団となかまたち～風の合奏団】

対象	小学生(低学年)	○	小学生(中学年)	○		
	小学生(高学年)	○	中学生	○		
企画名	風の五重奏団となかまたち～風の合奏団					
企画のねらい	木管五重奏(フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット、ホルン)を中心とした室内楽(サックスも加わります)を通じて、プロ奏者による生演奏の魅力を身近に体験いただくと共に、ハンドベルを使用した共演曲等を通して、何よりも「音楽の楽しさ」を体験していただきたい。また、場合によっては楽章間には拍手をしない習慣や、アンコールへの流れ(カーテンコール)を通常の公演と同じように進行することで、将来必要となるクラシック公演に於けるマナー習得の機会とし、「少し知ることで、将来に渡って音楽や舞台芸術をより楽しんでいただければと考えます。また、ご希望があれば校歌やご希望の楽曲をご一緒に演奏できるよう準備することで、より楽しい思い出が残ればと思います。子どもたちのために、ぜひ一緒に汗をかきましょう!					
演目概要・演目選択理由	これまで約20年間、木管五重奏を中心に、文化庁「芸術家の派遣」事業を利用された全国各地の学校等で演奏をしてきました。しかしここ数年、特に東京から300キロ程度以上の距離がある小規模校の皆様には、なかなかご希望に添えない状態が続いているため、少しでも先生方のご希望にお応えできる機会を増やすべく、本事業にエントリーしました。特に近年、小規模な学校に於いては、独自予算で芸術鑑賞会を催すことは大変困難であることから、本事業は非常に貴重な機会であると考えます。編成上、演奏会場は音楽室等、ある程度温度管理が可能で不可抗力による騒音を防げる場所が好ましいと考えておりますが、他に方法がない場合は体育館に複数の卓球台等をご用意いただくことでも対応が可能です。					
児童・生徒の参加または体験の形態	ハンドベルを使用したモーツアルトのカノン(オリジナル演目。3曲あります)を、ワークショップの時間を利用した練習の後に、公演の中で共演します。一度に最大で80人まで対応可能ですが、お勧めは30人程度ずつの共演です。 他に、校歌や共演したい楽曲のご希望がある場合、その都度楽譜を制作してきており、歌唱、器楽合奏等様々な形態での共演を行なうことが可能です。どうぞ遠慮なくご希望をお寄せください。					
児童・生徒の参加可能人数	本公演	参加・体験人數目安	最大80名程度。(聴衆全員が参加)			
		鑑賞人數目安	最大100名程度。			
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	<p>プログラム例(一部はご希望により変更可能)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ドヴォルザーク:「スラブ舞曲第1番」</li> <li>ベートーヴェン:「五重奏曲」より“第1楽章”(オリジナル:七重奏曲 op.20)</li> <li>オーボエ、クラリネット、フルートのご紹介と演奏(伴奏付き)</li> <li>木村弓:映画「千と千尋の神隠し」から“いつも何度でも”(他、全4曲のジブリ映画作品の中から選択)</li> <li>ファゴット、ホルンのご紹介と演奏(伴奏付き)</li> <li>ミヨー:「スカラムーシュ」より“第3楽章”(サックスソロ。木管五重奏による伴奏)</li> <li>共演コーナー:モーツアルトのカノン(3曲の中から選択。聴衆全員が参加、ハンドベルで共演)</li> <li>ベリオ:「作品番号獣番」より“ねことねこ”(会場の大きさにより、テキストの聞き取りが難しい場合は「ドレミの歌」) (アンコール曲:「夢をかなえてドラえもん」「ザザエさん一家」「ロンドンデリーの歌」から選択)</li> </ul>					
公演時間	50	分				
出演者	<p>風の五重奏団となかまたち～風の合奏団(フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット、ホルン、サックス、及び司会。合計7名。楽器紹介でピアノを使用します)  <a href="https://arinomi.jimdofree.com/">https://arinomi.jimdofree.com/</a>  ※司会者はナチュラルホルン、ピアノ、投影、ハンドベル指導を兼任。全員が搬入、搬出担当を兼任。</p>					
演目の芸術上の中核となる者(メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等)の個人略歴 ※3名程度 ※3行程度/名	<ul style="list-style-type: none"> <li>小川正毅(お話、投影、ハンドベル指導、ナチュラルホルン紹介、ピアノ)東京藝術大学卒業。山形交響楽団、東京ニューシティ管弦楽団、劇団四季ミュージカルオーケストラを経て、トキヨウ・ミタカ・フィルハーモニア、フィルハーモニア東京メンバー。みたかジュニア・オーケストラ副指揮者、(一財)地域創造「公共ホール音楽活性化支援事業」協力アーティスト。風の五重奏団、風の合奏団プロデューサー。詳細は <a href="https://arinomi.jimdofree.com/">https://arinomi.jimdofree.com/</a></li> <li>・丸田悠太(フルート。東京佼成ウインドオーケストラ団員。昭和音楽大学、洗足学園音楽大学、国立音楽大学講師)</li> <li>・西尾郁子(クラリネット。第6回日本管打楽器コンクール入選) ※丸田、西尾については予定。</li> </ul>					
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数 含む	出演者: 7 名	運搬	積載量: 0.35 t			
	スタッフ: 名		車 長: 4.7 m			
	合 計: 7 名		台 数: 2 台			

本公司 会場設営の所要 時間 (タイムスケジュー ル)の目安	前日仕込		有	前日仕込所要時間		2	時間程度				
	到着	仕込	上演	内休憩	撤去	退出					
	14:30	16:30頃までに	11:00及び 13:00開演	なし	16:00までに	16時30分					
※本公司演時間の目安は、概ね2時間程度です。											
本公司 実施可能日数 目安  ※実施可能時期につ いては、採択決定後 に再度確認します(大 幅な変更は認められ ません)。	6月		7月	8月		9月					
	5日		5日	5日		5日					
	10月		11月	12月		1月					
	5日		5日	5日		10日					
	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。			計		45日					
本公司 ・ワークショ ップの内 容	 										
	 										
	 										
	 										
	各種上演権、使用権等の許諾手続の要 否		該当あり	該当コンテンツ名	ペリオ「作品番号獣番」・ジブリ作品 作品等						
	該当事項がある 場合	権利者名	ジャスラック他	許諾確認状況	使用(上演)許諾取付済						

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添

なし

【公演団体名 風の五重奏団となかまたち～風の合奏団】

ワークショップの内容	ワークショップのねらい	聴衆全員が参加し、音楽の楽しさ、面白さを分かちあうこと。 (上手にこなすことではありません)		
	児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人數目安	1度に80名程度まで
	モーツアルト作曲の「カノン」(3曲あり、全てオリジナル演目です)を題材に、お持ちするハンドベルを使用して共演をお楽しみいただきます。楽器は最大で80個お持ちしますが、お勧めなのは1度に30人程度まで2つの共演です。人数が多い場合は複数回、一緒に演奏します。逆に、最少では10人程度で共演することも可能です。			
	児童生徒の皆さんその他、先生方などその場においてなったなるべく多くの方、できれば全員にご参加いただけるよう、その都度柔軟に運用しています。  ワークショップでは、まず全員で半円状に一列にお並びいただき、曲の音に合った順番で楽器をお配りします。楽器は大きく2つのグループに分かれていますので、グループ毎に何度か練習し完成度を高めておき、公演では木管楽器と一緒に演奏します。  この際、状況を見て低学年のみの場合は簡単なリズムにしたり、逆に高学年や中学生の場合はリズムのパターンを変えたり、若干複雑にしたり、速さを変えたり、曲によっては音を増やしたりすることで、「じょうずにこなす」のではなく、「ちょっとむずかしかったけど楽しい」体験となるように配慮して行っています。  時間が許せば、単に「カノンの練習」だけでなく、作品の背景や、「平均律」と「純正調」の違い、またそれをどういうバランスで演奏すればきれいに聴こえるか、というプロの奏者が普段気をつけていることを体験していただければと思います。文字に書くと難しそうですが、実際にやってみると誰でも気が付くほど違う音がします。もし「ハーモニーディレクター」が学校にあれば、ご用意ください。さらにわかりやすく、気づきが大きくなることでしょう。			
その他ワークショップに関する特記事項等		特別なものは必要ありませんが、長机を4脚程度ご用意いただけます。		

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添

なし

【公演団体名 風の五重奏団となかまたち～風の合奏団】

記載方法等	例年、実施校の状況等により公演実施要件を満たさないことに起因するトラブルが一定数生じています。※以下は、過去実際にあった例です。				
	・会場が狭く、予定していた規模の公演が実施できなかった。				
	・搬入車両が構内に入れず、搬入のための追加費用が生じてしまった。				
	・児童・生徒が時間外の練習を行うことができず、児童・生徒の体験の範囲が限定的なものとなってしまった。				
	上記のように、公演実施要件を満たさない学校とのミスマッチングを防ぐため、公演実施に際して必要な条件を御記載ください。				
	任意項目については、学校に伝えるべき条件がない場合には記載不要です。				
	詳細な実施条件は、実施校との調整段階にて直接確認をいただることになります。				
	なお、特段条件を必要としない項目や未定の項目については「条件なし」を選択、または記入してください。				

会場条件	(必須) 公演実施にあたり、必要な会場条件を記載してください。				
	会場の設置階の制限	2F以上応相談	主幹引き込み電源容量	条件なし	A以上
	舞台設置面積	間口 高さ	8 m 3 m	奥行	3 m
	舞台設置場所	フロア対応	可	学校のステージでの対応	条件が合えば可
	搬入間口の広さ	幅	2 m	高さ	2 m
	遮光の要否	5割程度必要	縦幕の要否	不要	
	ピアノの使用について	あれば必要に応じて使用する	ピアノを使用する場合の設置位置の指定	あり	
	搬入車両( トラック等)の横づけ	応相談	トラック横づけ不可の場合の搬入対応可能距離	3 m以内	
	搬入車両の種類	普通車	台数	2 台	
	搬入車両の大きさ	車幅	1.7 m	車長	4.7 m
備考		使用車両は軽自動車または普通自動車ですので、特別な配慮は不要です。			

※表から数値を取得しますので、セルの結合や行の挿入・削除は行わないでください(幅や高さの調整は問題ありません)。

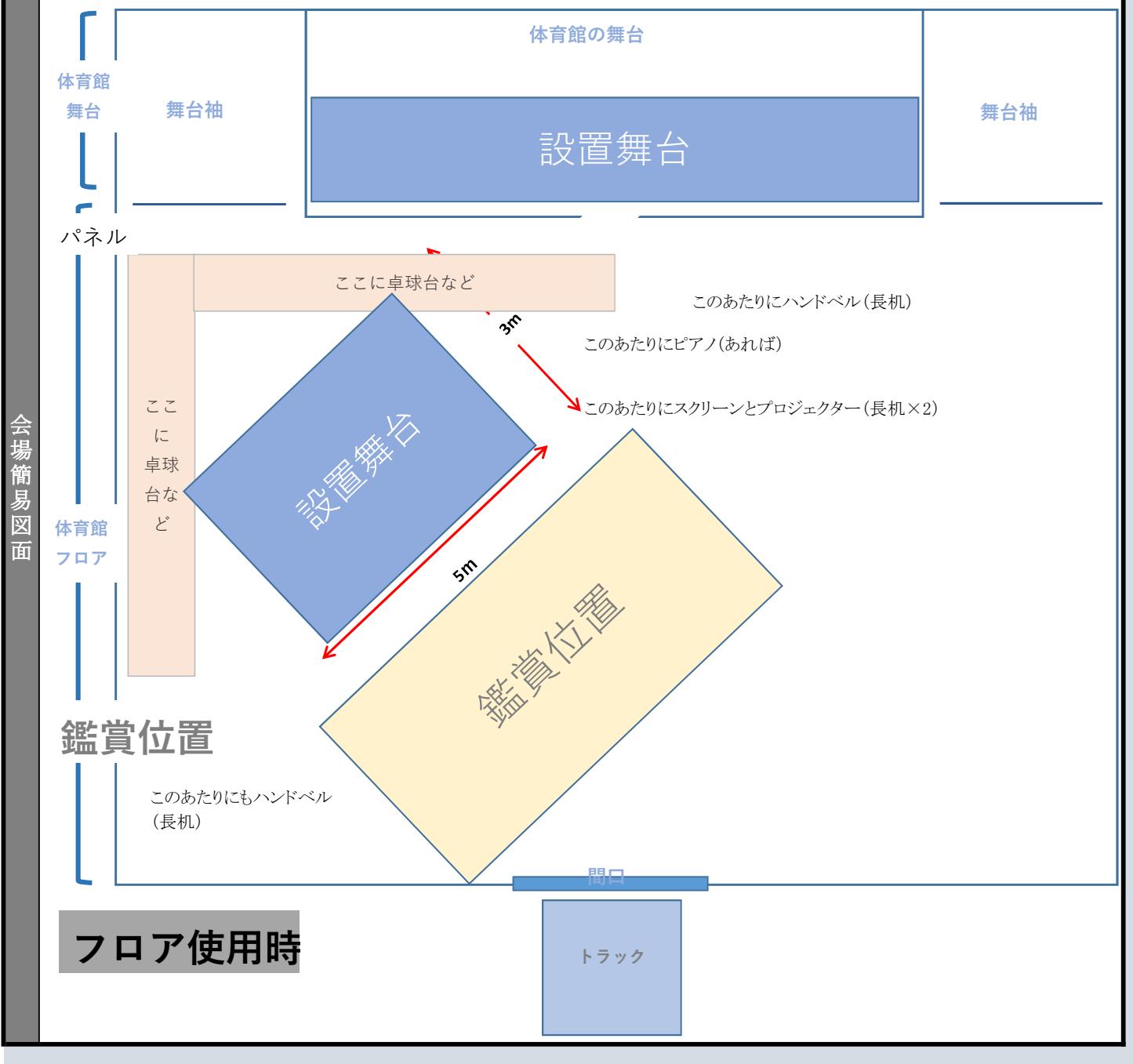
学校からの情報	(任意) 学校からの提出を求める資料がある場合のみ記入してください。				
	会場図面の提出要否				
	その他提出が必要な資料 (搬入間口や搬入経路の写真の提出等)				

時間外対応	(任意)		万が一、ワークショップや本公演のための児童・生徒の練習や製作物の作成に係る時間が、ワークショップや本公演の時間以外に別途発生する場合については、必要となる練習時間や製作時間等を必ず明示してください。		
	なお、一部の児童・生徒のみが授業を抜けてリハーサル等や練習を行う必要がある場合は、実施校とのトラブルを避ける観点からもその旨を必ず記載してください。				
	※上記の際は、対象となる児童・生徒の保護者の方への事前連絡や御了承を得る必要があるか否か等含め学校と十分に調整をしてください。なお、その際、代表以外の児童・生徒へもご配慮ください。				
	対象	所要時間(分)	時間帯	内容	備考
	ワークショップ				
ワークショップ					
本公演					
本公演					

個別確認事項	(任意)		上記条件や資料以外に、公演実施に当たって学校へ個別の確認が必要な事項がある場合、記載してください。		
	個別ヒアリング事項				
	1	やむを得ず体育館での公演を希望される場合、卓球台、ついたて等、音響反射板として利用できるものについての打ち合わせをさせてください。(下記をご参照ください)			
	2				
3					

(任意) 会場条件について最低限必要な条件がある場合、簡易図面を記載してください。

※搬入に関する条件の詳細については、上記の会場条件欄にて確認してください。



別添

なし

【公演団体名 風の五重奏団となかまたち～風の合奏団】

## 本事業を通じて実現したいこと、また当該工夫

## 【本事業を通じて実現したいこと】

「音楽の楽しさを分かち合うこと」そして「日本国内どこに住んでいても、小学校、中学校に在籍するうちに一度くらいは生の演奏を楽しむ機会があつても良いのでは？」。これに尽きます。これまで約20年間、全国各地の学校で2000回以上の公演を行つて参りましたが、大変残念ながらここ数年、特に遠隔地の学校の熱心な先生方からいただいたご希望になかなかお応えできない(事業として採択されない)状況が続いています。

本事業では、こうしたこれまでご希望をいただいた学校の皆様と、通常の公演形態では芸術鑑賞会、コンサート等を催すことが難しい地域の皆様のために、少しでも多くの機会をご提供できればと考えています。

そして文化庁こそ、こうした声に応えてくれるのではないか？山形交響楽団という地方のオーケストラに在籍した経験からも、そう信じています。

## 【上記の実現に向けて、実施の工夫】

本公演では、小規模校での公演を想定して演奏家7名全員が搬入、搬出スタッフを兼任します。移動については機材、楽器及び機材の運搬車を普通車2台を上限として、搬入搬出や道中の幅員、高さ等について特別な配慮を必要としない体制を整えています。

また公演中、特に楽器のお話については、極力「自分の楽器は自分の言葉で紹介」するようしています。

投影については、現場でいただいたご意見を取り入れる作業を20年間続けてきた結果、50分の公演で100枚以上のテキストや写真を利用する形になっており、各地で「わかりやすかった！」と高い評価をいただいている。

また、一部の楽曲については、使用されている「テーマ」を意識してお楽しみいただくための解説や、作品の簡単な背景を、投影を併用してお話してから演奏することで「少し知って楽しむ」ことをご提案しています。公演の最後にカーテンコールを通常の公演と同じ手順で行うことにより、将来必要となるマナーを体験する一助になれば、と考えています。

## 【学校との連絡調整について】

基本的にはA4の大きさ1枚で打ち合わせができるシートをご用意しています。しかしここ数年、17時前には留守番電話になる学校が増えていました。一方では添付書類をつけるとメールが届かない、逆に学校から外部に発信するメールは管理者にその都度連絡を入れないとエラーになる、かつそのことをご存じない先生方もおられるなど、セキュリティ運用上の問題も生じてきており、連絡に苦労する場面が増えています。

当方では、電話(留守番電話)、FAX(ネット経由で受信するシステムを利用してお問い合わせ受け取れます)共に24時間お受けできる体制を取っていますので、どうぞいつでもご連絡ください。

## 【対象児童・生徒に応じた工夫や留意点について】

## 事業を適切かつ円滑に実施するための工夫

本事業の元になっているいわゆる「アウトリーチ」では、主にクラス単位で音楽室で演奏を楽しんでいたことを基本にしてきました。従つて小学校から高校まで、聴衆の皆さんと楽しく対話をしながら進めていくことも多く、そうした中で練り上げられた楽しいプログラムであると自負しています。投影原稿は低学年用を別に準備しており、特にハンドベルでの共演コーナーでは、対象学年によって様々なオプションが自然とできてまいりました。

また、特別支援学級や特別支援学校での公演では、当方の工夫以前に特に聴衆の皆さん非常に高い集中力を感じて演奏することが多く、演奏家の記憶にも強く残っています。

## 【本公演等実施後の児童・生徒への継続的な学びについて】

「生の演奏を目の前で体験した後の良い影響は、大人が想定したよりも長く続く」「学年が上がれば、同じ演奏を鑑賞してもまた違う学びがある」とは、現場の先生方からよくお聞きする言葉です。本来であれば、数年に一度は様々な芸術の鑑賞機会があればと思いますが、仮にそれが難しいのであれば、まずは一度、本事業でお会いすることで、そのきっかけ作りのお手伝いができます。メンバーの中には(一財)地域創造の音楽活性化事業の経験者や、(公財)音楽文化創造認定の生涯学習指導員、地域音楽コーディネーターがおります。是非お気軽にご相談ください。

## 本事業への応募理由等

別添

なし

【公演団体名 風の五重奏団となかまたち～風の合奏団】

特別 エリア 区分 で 事 業 を 実 施 す る に 当 た つ て の 工 夫	①離島・へき地等における公演実績	<p>これまでに文化庁「芸術家の派遣事業」にて、東京都(大島)、新潟県(佐渡)、鹿児島県(屋久島、口永良部島)、長崎県(壱岐、対馬)等で公演。2024年11月には、市内の他校及び学校アドバイザー、地域の方々、演奏家の協力を得て、青森県十和田市の十和田湖小中学校(児童生徒数7人)で公演。</p> <p>児童生徒数100人未満の学校や、既に統合された学校(栃木県茂木町、千葉県栄町、及び印西市、長崎県壱岐市等)での公演も多い。しかしここ数年は「初めて申請」「今年で閉校」であっても不採択の学校が散見されるようになり、本事業へのエントリーを考えた。なお今回希望したエリア区分(No.8参照)は、いずれもこうした学校からのご希望があったものの不採択となりお伺いできなかった地域である。</p> <p>また、日本音楽家ユニオン、(公財)音楽文化創造、(公社)日本芸能実演家団体協議会による「あすなろコンサート」に関東地域在住の演奏家として協力する形で、児童数100名未満の学校に演奏を届ける取り組みにも参加している。</p>
		<p><b>【特殊な事情がある地域での実施に当たっての工夫】</b></p> <p>公共交通機関で到達できない学校の場合、これまで文化庁「芸術家の派遣」事業においては、公演のご希望をいただいた学校の先生方や、地域の方々のご協力により、幸うじて公演が成立してきた経緯があるが、本事業ではこの部分が学校や地域の負担にならないよう、事前の見積もりに注意深く反映させた。</p> <p>また場所によっては、機材の運搬において演奏家の協力が不可欠であるが、演奏の質に影響を及ぼさない範囲で協力を仰ぐことについて理解した者を参加させる。ワークショップについては、使用するハンドベルの数を人数に合わせて柔軟に変更することで、運搬を可能にしている。</p> <p><b>【質を保つための工夫】</b></p> <p>空調の完備された会場の演奏。体育館を極力避ける。必要であれば音楽室や視聴覚室、ランチルーム等で複数回の公演を行う。基本編成が木管五重奏であることから、温度管理ができない会場では演奏の質が担保できない。演奏会場の温度が15度を下回ると楽器が割れることがあり、特にファゴットは管が長いため、最後まで音程が他の楽器に追いつかないままになる。(どう頑張っても音程が合わない) 最近は空調の完備された体育館も増えてきたが、肝心の空調自体が大音量で公演時に止めなければならない、公演中に隣の敷地で草刈りが始まるなど体育館での公演には防げないリスクが多い。しかし他に方法がなければ、卓球台等を音響反射板としてアリーナの角で演奏する等(No.2最下部の写真参照)、対策の余地はある。その都度ご相談して質の高い演奏の実現を目指している。</p>
	③特別エリア区分応募における、費用面の工夫	<p>公共交通機関で現場まで到達することを原則とするが、これが不可能な場合、事前に搬入を行った上で、最低1台走らせている楽器、機材等を積んだ車を活用して送迎を行うことで何とか現場に到達している。ただし過去にはこの状況を見かねた先生方が、送迎の一部協力を申し出てくださることもあった。この状況は避けたいので、事前に充分なりサーチを行う。また、フェリー航路がない(貨客船のみの就航)離島においては、演奏家の全面的な協力を得ても全ての機材を運べないことがあった。この部分については引き続き大きな課題であり、「No.7」の最下部にこの件を記入している。</p> <p>2000公演以上の文化庁「芸術家の派遣事業」の経験と、近年の状況(ご希望をいただいた学校に、なかなか伺えなくなっている)を踏まえ、全ての経費について、本事業で新たに発生する経費以外は、基本的に「芸術家の派遣」事業で培ったノウハウと機材をそのまま使用する前提である。特に、これまで度々問題となっていた、「前日の搬入」が可能であることは、本事業の大きな特色であり、これまで目に見えない経費となり、各所に負担を生じさせていた部分が仕組みの中に最初からきちんと収まっていることには、大きな意義を感じている。</p> <p>最後に、出演者7名全員が搬入、搬出スタッフを兼任することは、本来は演奏の質の確保に反する判断であり、制作側としては苦渋の選択であるが、今回は費用面の工夫の一つとして演奏家に提案し、演奏に支障のない範囲で理解と協力を仰ぐ。</p>